

先月中旬、県北勤務時代の卒業生達と集まる機会があった。どの子もそれぞれに个性的でエピソードは尽きないが、とりわけ私が転勤してからも「どうしてるかな」と思い出すことの多かったのがIさんである。

活発な性格で、常にクラスを中心にいる。学習への取り組みも緻密で、表現力豊か。その彼女が3年次に選んだ進路は「養護教諭」だった。優秀な生徒だったけれど、かなり高いハードルだけに「まずは推薦入試で志望大学に挑戦したい」と申し出てきた。面接練習の計画を立て、訊かれそうな質問項目をまとめて事前に渡した。しっかり者の彼女のことだから、練習はスムーズに終わるだろうと思っていた。

ところが目の前で私が尋ねることに、ほとんど満足に答えられない。なぜこの道を、この大学を志望するのか、肝心な質問にも少し答えては言葉に詰まり、の繰り返し。途中で打ち切り「これでは話にならん。今度もう一回やるから、それまでに何とかして」と言って帰した。

ここからは後日知ったことだが、この時の私の冷たい対応に腹が立ったのだろう、帰宅した彼女はお母さんに「別に、養護教諭になるだけが道じゃないわね」と開き直ってみせたのだという。それをお母さんは厳しく窘（たしな）めた。「簡単にそんなことを言うもんじゃない」と。

2度目の練習の日、彼女は見違えるように変わっていた。十分に準備がなされ、突然の質問にも慎重に言葉を紡いでゆく。この大学でなければならぬ、という思いが痛いほど伝わってきて、練習中だというのに胸が熱くなってしまった。そのことを言うと、彼女はぼろぼろと涙を流し、前述のお母さんとのやり取りを話してくれた。

結局、彼女は志望大学に合格しなかった。使えるチャンスは全て使ったが叶わず、県外の短大へ進んだ。

あれから6年。24歳になったIさんは今、宮崎市内の小中学校で臨時の養護教諭を務めている。短大を卒業して3年間は別の仕事をしていたが、夢を諦めきれずに地元へ戻ってきたのだそうだ。

「不合格」と一口に言っても、そこに至る背景は色々である。彼女のひたむきな姿に、こちらがどれほど力をもらったか。更にはこうして念願の現場へやって来た。その熱意には深い感動を覚えずにいられない。

新しい学年が始まった。夢実現へのルートは、短い方がいいのかもしれない。「まわり道」は、せずに済むならそれに越したことはないのかもしれない。しかし新2年生が、たとえまわり道をするようになったとしても前向きに、逞しく進む人達であることを願いたい。

(2年担任 K. T)

週行事予定表 (4/16~4/29)

月	日	曜	行事予定	課外	備考
4	16	(土)	休日		
4	17	(日)	休日		
4	18	月	1年課外開始 職員会議 (PTA総会等)	B	7:25 着席
4	19	火	各種委員会 検尿1次 胸部レントゲン1年 大学進学説明会(かんぼの宿~18:00)	B	7:25 着席
4	20	水	検尿1次	B	7:25 着席
4	21	木		B	7:25 着席
4	22	金	身体測定 人権教育担当者会	B	7:25 着席
4	23	(土)	全統模試 (3年)		8:00登校 8:20開始
4	24	(日)	全統模試 (3年) 宮崎東高スクーリング		
4	25	月	眼科・歯科検診 (1年) 第1回自宅学習強化週間 (~5/1)	A	7:25 着席
4	26	火	第1回エクセル祭運営委員会 内科検診 (1年)	A	7:25 着席
4	27	水	内科検診 (1年) 自転車・列車通学生集会 企画予算委員会②	A	
4	28	木	PTA総会準備・大清掃 貧血検査 (1年)	A	7:25 着席
4	29	金	昭和の日 PTA総会 PTA新旧役員会		7:25 着席